

那須街道赤松林について



平成19年10月19日（金）

関東森林管理局 塩那森林管理署

那須街道赤松林の概要

那須街道赤松林は、那須街道の両脇に広がる約14,000本のアカマツを主体とする面積約79haの天然林で、標高は約300～330mになります。

明治23年から昭和22年までは「高久第一御料地」と呼ばれる旧宮内省所管の御料林でした。

戦後の開拓事業により全面積を伐採される計画もありましたが、那須街道の景観を守ろうとする人達の活動によって、開拓の危機を乗り越えて、今日まで貴重なアカマツ林が存続されています。

現在は林野庁が所管する国有林となっています。

約14,000本のアカマツからなる那須街道沿いの景観はひととき人目を引き、県内唯一の風致保安林に指定されているほか、「とちぎの景勝百選」にも選定されています。

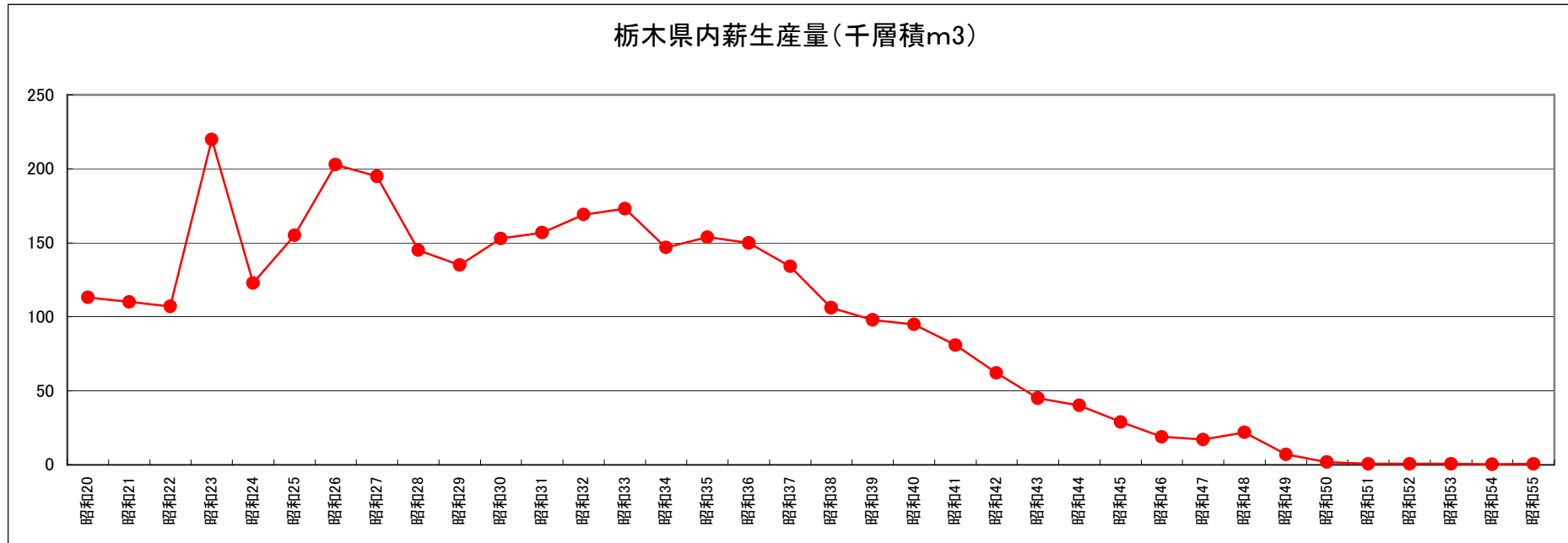
市街地に隣接する平地林型の大規模な里山としても大変貴重で、様々な里山ならではの生き物の姿も見られます。

また、オオタカの営巣地にもなっており、16年にわたるモニタリングが行われています。



平成16年11月(株)アクリーグ撮影

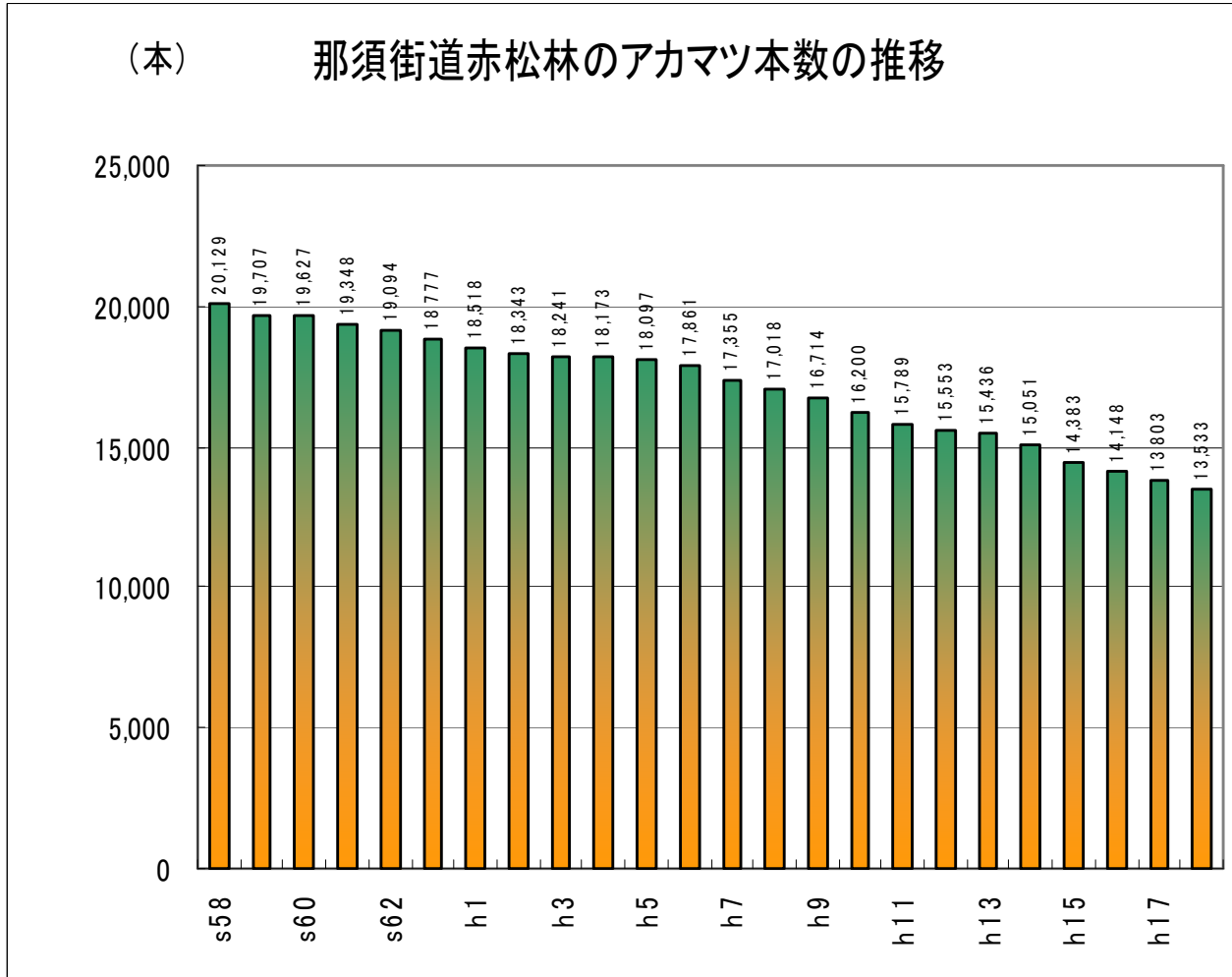
藪化の進行による里山の変質・劣化



従来の里山ならではの
種・生態系の危機



松くい虫被害



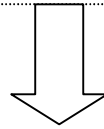
松くい虫被害木

里山の保全再生の取組み

(1) 地域のコンセンサスの形成

保全の方向性にかかるコンセンサス形成のための検討会を開催しました。

「放置」か、アカマツ林として維持管理していくべきか。



御料林時代からアカマツ林として仕立てられ、終戦直後の開墾の危機時も風致維持のため特別に残されてきた歴史的経緯や、アカマツが猛禽類の営巣環境として必要なことから、アカマツ林として維持していくべきとゆう結論になりました。

(2) ボランティアによる植樹等

平成14年5月の「敬宮殿下御誕生記念の森」設定を契機に、毎年ボランティアによる植樹や天然下種更新地の設定が行われています。

平成14年度 敬宮殿下御誕生記念の森設定及び高久中学校生徒による植樹
計1.2ha

平成15年度 植樹及び天然下種更新地設定 計0.3ha

平成16年度 ボランティア植樹及び天然下種更新地設定 計0.7ha

平成17年度 ボランティア植樹及び天然下種更新地設定 計0.4ha

平成18年度 ボランティア植樹及び天然下種更新地設定 計0.4ha

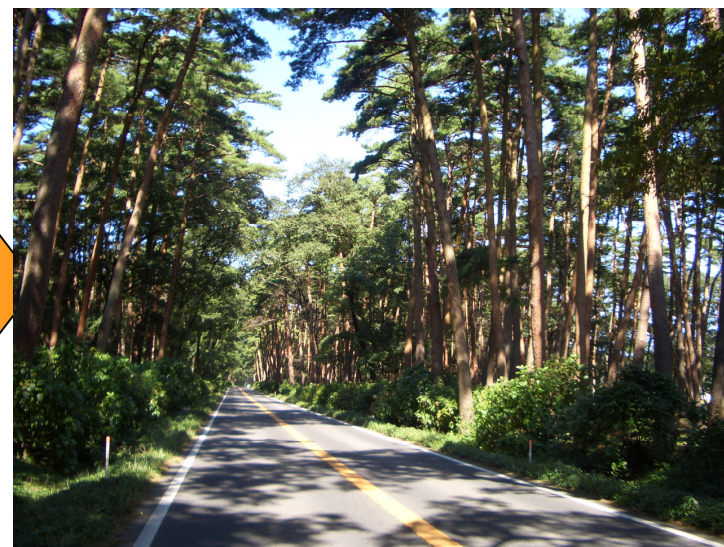


- (3) 下刈・雑木類の整理
署、栃木県、那須町が実施しています。



平成3年5月

下刈及び街道に面した雑木の
一部除去 (H.15・16・17・18年)



平成18年6月

- (4) ゴミ拾い
毎年自治会が実施しています。

- (5) 落葉さらい
2つの共用林利用組合が、ボランティア的に落葉さらいを実施しています。
(以前の用途は、燃料及び畑へのすき込み用であったが、現在の用途は、
主に牛舎の敷藁)

